

お詫びと訂正

本誌2017年9月号特集『肺がん』中に誤りがございました。お詫びして訂正いたします。(編集部)

頁数		誤	正
22頁	見出し「(1) ペム ブロリズマブ」の 本文1行目	KEYNOTE010試験は、全身状態良好な化学療法未治療のPD-L1陽性（腫瘍細胞におけるPD-L1陽性細胞1%以上）の進行NSCLCに対するペムブロリズマブ10mg/kg, 2mg/kgとドセタキセルを比較した第III相試験である。	KEYNOTE010試験は、全身状態良好な <u>プラチナ製剤併用化学療法施行後にPDが認められた</u> PD-L1陽性（腫瘍細胞におけるPD-L1陽性細胞1%以上）の進行NSCLCに対するペムブロリズマブ10mg/kg, 2mg/kgとドセタキセルを比較した第III相試験である。
	図2の出典	Herbst RS, et al : Lancet, 387 : 1540-1550, 2015 より	Herbst RS, et al : Lancet, 387 : 1540-1550, <u>2016</u> より
25頁	引用文献4)	Herbst RS, et al : Lancet, 387 : 1540-1550, 2015 より	Herbst RS, et al : Lancet, 387 : 1540-1550, <u>2016</u> より

本誌2017年9月号 薬剤師×医師のケースカンファレンス『副作用推論』中に誤りがございました。お詫びして訂正いたします。
(編集部)

頁数		誤	正
140頁	右カラム上から6行目	グルコン酸カリウム + GI療法	グルコン酸カルシウム + GI療法